

# JANPU 活動報告書

## 1. 研修会・活動の名称

「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」の活用に向けて  
—大学における活用状況と活用例—

## 2. 主催委員会名

JANPU 看護学教育評価検討委員会

## 3. 開催日時・場所

2019年8月4日(日) 14:50~15:40

日本看護学教育学会第29回学術集会 指定交流セッション・国立京都国際会館

## 4. 開催内容

日本看護系大学協議会(以下、JANPU)が、2018年6月に発表した「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標(以下「コアコンピテンシーと卒業時到達目標」)を看護基礎教育で有効に活用していくための研修会を開催した。

「コアコンピテンシーと卒業時到達目標」の概要と2018年度に実施した活用状況の調査結果の報告及び、すでに活用している大学の中から2大学の取り組みの紹介と参加者との意見交換を行った。

1. 「コアコンピテンシーと卒業時到達目標」の概要及び活用状況の実態(小山真理子)
2. 看護学士課程におけるカリキュラムや教育内容を検討する上での活用例  
(京都橘大学 看護学部看護学科 河原宣子)
3. 精神看護学領域での活用例(東京女子医科大学 看護学部看護学科 濱田由紀)
4. 意見交換

### ・アンケート実施

研修会参加者75名のうち43名(回収率57%)からアンケートへの協力があった。

### 【アンケート回答者の属性】

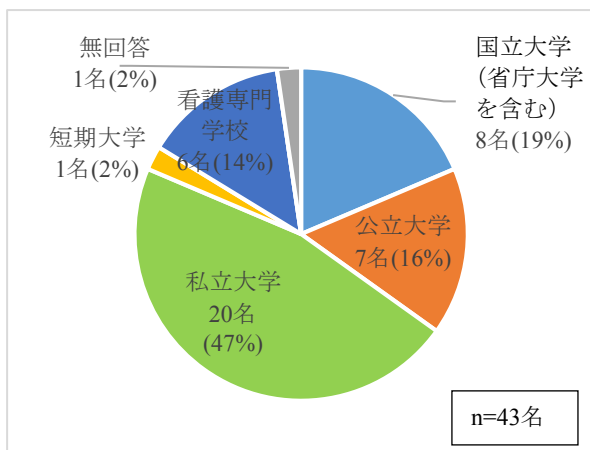


図1 所属別

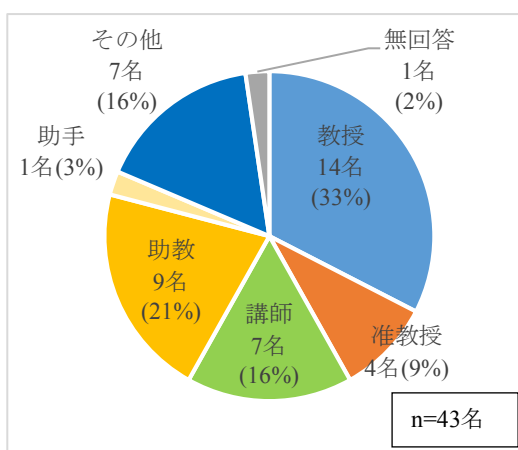
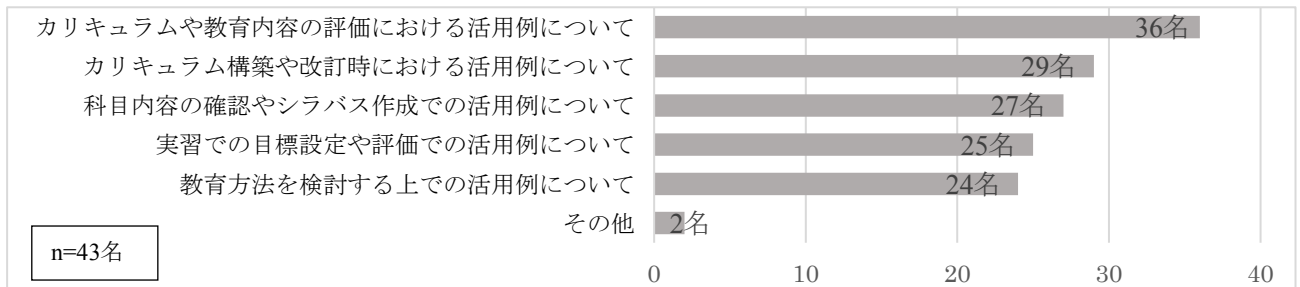


図2 職位別

## 【本企画は「コアコンピテンシーと卒業時到達目標」の活用への参考となったか】

	回答数(%)	あまり参考にならなかった理由
非常に参考になった	17(39%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの段階で活用した評価を行うか知りたい</li> <li>・ディプロマポリシーとの関連を知りたい</li> <li>・看護学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連を知りたい</li> </ul>
まあ参考になった	24(55%)	
あまり参考にならなかった	2(4%)	
参考にならなかった	0	

## 【「支援ガイド」に含めて欲しいと思う内容（複数回答）】



その他：ALの実践例、看護学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連

## 【「支援ガイド」作成に向けた意見・希望（自由記述）】

<カリキュラム作成時の具体的内容を含めて欲しい>

- ・カリキュラムへの具体的な導入のガイドを含めて欲しい(3名)
- ・学生と教員の評価の違いをどうするか
- ・学生がどう成長したか、到達したか知りたい

<領域間の調整内容を含めて欲しい>

- ・それぞれの内容・項目をどの領域がメインとして担当されるのか、重なり・抜けを防ぐためのヒント
- ・領域横断すると、どう評価するかわからない

<カリキュラムへの活用時の検討例を含めて欲しい>

- ・カリキュラム構築時の活用例に、全教員（若手教員含めて）で検討する必要性を示していただきたい
- ・(大学教員として) 教育歴が浅いと思われがちな助教や講師でも、関わられるような取り組み例

<支援ガイド運用時の要望>

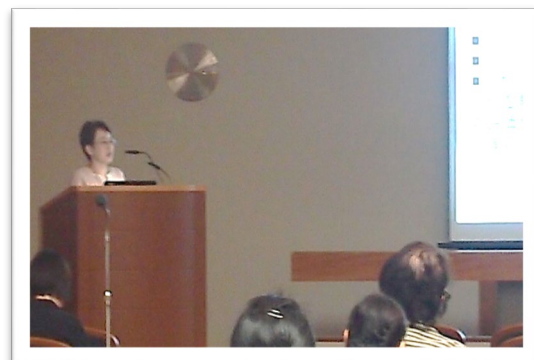
- ・質問票の提示と使用許可
- ・「何に活用できるのか」「どう活用できるのか」単なるチェックリストにならないようにしたい
- ・How to のようなものではないところの支援ガイドの作成を期待

## 5. 当日の様子



小山真理子先生

「コアコンピテンシーと卒業時到達目標」の概要及び活用状況の実態』



河原宣子先生

看護学士課程におけるカリキュラムや教育内容を検討する上での活用例



濱田由紀先生

精神看護学領域での活用例



意見交換

## 6. 参加者の感想・満足度等

- ・具体的な他大学の取り組みを知る機会となり、良かった。
- ・更に、活用の際に他の指針を目的に応じてどう活用しているか、実際の様子も聞いてみたい。

## 7. 主催側の感想・反省点・今後の課題等

- ・学術集会の指定交流セッションという場であり、若手教員にも気軽にご参加頂けて良かった。
- ・全体で50分間であり意見交換の時間が短かった為、プログラムの工夫を行うことで相互交流の場となると考えられる。